

⑧ 未来へ繋ぐ地球温暖化対策推進事業

今世紀末までに
世界の平均気温最大4.8℃上昇!

【平成28年度当初予算額 4,700千円】

2016年
“脱・炭素社会”の幕開け!

将来の温暖化の影響に備えた「適応策」の展開

近年の気候変動

- 猛暑日や集中豪雨等、気候変動の影響と考えられる現象が多発
- 徳島の年平均気温は過去100年あたり「1.39℃」上昇
- 最も厳しい削減努力を行ったとしても、気温は上昇

1. 「気候変動適応戦略」

◎気候変動の影響による「リスク」低減のため、
地域特性に応じた「適応策」を取りまとめ

- 地域ごとの脆弱性を踏まえた対応力の強化
- 影響のプラス面の効果的活用
- 県民生活に関する幅広い分野を対象



県民の生の声を反映

「適応策」「緩和策」を
両輪とした
気候変動対策

「民間団体との連携」
「温暖化防止意識の醸成」
「県民・事業者への情報発信」

- ・環境審議会「気候変動部会」、専門委員
- ・ワークショップ・フィールドワーク
- ・フォーラムの開催 [関連事業]

県民の生の声を反映

CO2排出を抑制する「緩和策」の推進

2015年

- CO2削減の国際的枠組み・COP21「パリ協定」に合意 (今世紀後半には「実質排出ゼロ」に)
- 新たな「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」、
「水素グリッド構想」の策定

2. 「地球温暖化対策推進計画」

◎今世紀後半を見据えた、
「2030年」の温室効果ガス削減目標の設定

- 自然エネルギーの最大限導入
- 水素エネルギーの利用拡大
- エネルギーの効率的利用、徹底した省エネ



背景

「適応策」「緩和策」の
総合的・計画的推進

- 平成20年10月、中四国初の
「地球温暖化対策条例」として制定 ⇒ 約10年経過
- ・水素エネルギーの実用化
- ・異常気象による災害、健康被害等の増加

3. 「徳島県地球温暖化対策推進条例」

◎気候変動対策の条例として、**新規制定!**

- 水素エネルギー活用の促進
- 「適応策」の取組推進

県民総ぐるみで「環境首都・新次元とくしま」を実現!!

水素社会の実現を加速化！ 全国に先駆けた「一歩先の未来」へ

【平成28年度当初予算額 67,000千円】

平成28年3月「水素元年」スタートダッシュ施策の結実

○燃料電池自動車出発式
公用車への率先導入により
全国の普及を牽引



○水素ステーション開所式 全国屈指！

「2つ」の水素ステーション
(移動式・自然エネ由来)
が運用開始



全国トップ
での開所



移動式水素ステーション イメージ

自然エネ由来水素ステーション

国の「エネルギー・環境イノベーション戦略」と連携し
「水素社会」の実現を加速化!

○新 水素エネルギー活用未来創造事業

【61,000千円】

○自然エネ協・会長県として、全国をリードする普及施策を展開、
「安定的なエネルギー供給」と「需要創出」をさらに加速化

1 エネルギーの地産地消 30,000千円

県内産水素エネルギー活用事業

- 県内事業者の副生水素を、FCV燃料をはじめとする「県内産エネルギー」として活用
- 経産省の補助事業を活用し、副生水素の多様な面的活用計画を策定



奇性ノダ工場

2 水素エネルギーの利用拡大 31,000千円

○1 水素エネルギー産業利用加速化事業

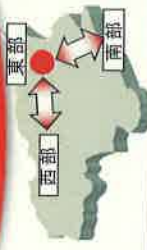
- 運輸・物流、製造分野での水素エネルギー導入を加速化
- 水素ステーション・燃料電池フォークリフトを導入する事業者を支援

水素ST 1.6億円 国費 1.2億円 県支援 2千万円 事業者 2千万円

FL 12百万円 国費 5百万円 県支援 5百万円 事業者 2百万円



徳島発の政策提言で
運用箇所数拡大が実現



○2 水素ステーション普及実証事業

- 南部・西部圏域で移動式水素ステーションを実証運用
- FCVユーザーに対する利用状況のモニター調査実施

○3 燃料電池自動車導入促進事業

- 対象をリースへ拡大、民間のFCV導入を支援(3台)

○新 未来エネルギー普及啓発事業

【6,000千円】

○水素社会啓発・体験ゾーンと自然エネルギーミュージアムとの連携により、徳島から「未来エネルギー」を全国発信

1 水素エネルギーの普及啓発 5,500千円

○1 水素グリッドフォーラム開催

- 自治総合センター助成金を活用
- 「水素グリッドフォーラム(仮称)」を開催し、全国屈指となる本県の施策展開を全国へ情報発信

○2 水素啓発イベント実施・V2L導入

- 水素社会啓発・体験ゾーン、移動式水素ST等を活用
 - ・未来を担う子どもたちへの環境学習
 - ・県庁舎見学やとくしまマラソン等との連携
 - ・試乗会の実施、V2Lによる災害時の電源確保を体験



環境学習の拠点
災害時活用等を啓発

水素社会啓発・体験ゾーン

2 自然エネルギーの普及啓発 500千円

現地見学会等の開催

- 企業局の「自然エネルギーミュージアム」や教育委員会、とくしま環境県民会議等と連携、県民や子ども向けバスツアーを実施
- メガソーラーや小水力発電など多様な自然エネルギーに触れる環境学習



川口ダム自然エネルギーミュージアム

[危機管理部]

⑨ 「とくしま生物多様性センター」機能強化推進事業

目的

【平成28年度当初予算額 5,500千円】

本県に飛来したコウノトリの保護活動を契機とした「**生物多様性保全の気運**」をさらに醸成させるとともに、「**人と自然との調和を目指した仕組み**」を通じて、「**生物多様性戦略**」の推進を図る。

これまでの取組み

H25. 10

生物多様性とくしま戦略
生物多様性戦略
生物多様性戦略



「生物多様性とくしま戦略」策定



H27. 10

「とくしま生物多様性センター」設置



・生物多様性リーダー養成講座 (H27. 5～10、全16講座)

・生物多様性リーダー20名認定 (H27. 10. 25)

目標 H30_100人

生物多様性リーダーの養成



H27. 11

「鳴門・コウノトリ鳥獣保護区」指定

取組みをさらに推進・加速!

生物多様性協働推進事業

「**県民相談員**」として「**生物多様性リーダー**」を人材登用

県民の協働活動を支援

- **生物多様性教育**を推進 (総合中学校・地域等)
- 協働活動を**コーディネート** (スマホ生物調査、保全)
- 戦略推進の**企画運営** (フォーラム開催等)

多様な主体の参加を促進

県民協働による生物多様性の継承



ツリーイングで森を体感学習

ステップアップ

アドバンスリーダー (指導者)

「とくしま生態系ホットスポット10選」選定事業

コウノトリ飛来を契機に、希少野生生物を育む貴重な生態系を「**生態系レッドリスト**」としてピックアップ

学術的検証・地域のコンセンサス

貴重な生物多様性を次世代に継承する

「**とくしま生態系ホットスポット10選**」を選定 (H30年度までに)

県民協働による保全・環境教育

徳島の生態系の魅力を観光誘客、特産品に付加価値化



コウノトリ育み事業

コウノトリ定着のための環境整備



本県の豊かな生物多様性を次世代へ継承!

[連携課: 環境首都課、経営推進課、博物館]

担当: 生活安全課

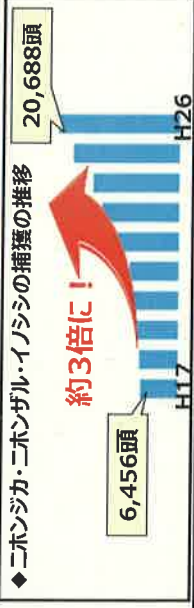
事業の背景

直面する課題

- ニホンジカ、イノシシ、ニホンザルなどの野生鳥獣の生息域・生息数の拡大により、自然植生や農林水産業への被害が深刻化
- 狩猟者の減少・高齢化により、有害鳥獣捕獲の担い手が減少し、効率的な捕獲体制の構築が必要

課題解決に向けた方向性

- 有害鳥獣捕獲や個体数調整等の管理を推進
- 狩猟者の減少に対応した効率的な捕獲体制の構築と若手を中心とする狩猟人材の育成確保



事業概要

鳥獣被害の防止に向けて

ニホンジカ管理捕獲・利用促進プロジェクト事業

【43,173千円】

- ① 指定管理鳥獣捕獲等事業
 - ・認定鳥獣捕獲等事業者による管理捕獲を実施
- ② ニホンジカ適正管理事業
 - ・一斉捕獲月間（5月，10月）に県下一円ですべて集中捕獲
- ③ 剣山地域等ニホンジカ被害対策事業
 - ・防鹿柵等の修繕による希少野生植物の保護



「阿波地美菜」として活用！

新 イノシシ指定管理捕獲事業

【40,000千円】

- ① 新 指定管理鳥獣捕獲等事業
 - ・認定鳥獣捕獲等事業者による管理捕獲を実施



ニホンザル適正管理事業

【7,083千円】

平成35年度までに加害群・個体数を半減させるため、
 【環境省】「ニホンザル対策推進モデル事業」による加害群れの行動圏・加害レベルの把握
 【徳島県】大学や民間研究機関と連携した

- ① 加害群れを大型捕獲檻で集中捕獲の検証
- ② 規模を縮小させた群れの繁殖抑制を実施し、「ニホンザル加害群減少モデル」を確立



避妊薬で繁殖抑制

狩猟者育成確保対策事業

【5,000千円】

- ① 新 野生鳥獣管理捕獲コーディネーター育成事業
 - ・適切な捕獲方法、集落等への出没対策等の助言・指導を行う
 - 地域コーディネーターの育成
- ② 新 狩猟技術者育成コーディネーター制度事業
 - ・経験の浅い狩猟者へのマンツーマン指導によるスキルアップと技術伝承
- ③ 「若手狩猟人材」の育成・定着化を図る講座等の開催
 - ・野生鳥獣の生態や狩猟の知識や実践的な捕獲等の技術習得

